



埼玉県マスコット
「コバトン」

令和8年産（7年播種） 麦類の生育概況 vol.6



（令和8年5月8日現在）
埼玉県農業技術研究センター

要 約

- ◎ 気 象 概 況：4月の平均気温は平年よりかなり高かった。降水量は定期的に降雨があり平年並であった。日照時間は平年より少なかった。
- ◎ 生 育 状 況：出穂期は平年と比較して、小麦で2～4日、大麦で4～5日程度早まり、穂数はやや少ない。曇雨天傾向のためうどんこ病の発生が見られる。
- ◎ 今後取るべき技術対策
 - ・ 排水対策：排水機能維持のため、明きよ・排水路の補修を行う。
 - ・ 雑草防除：カラスノエンドウ、カラスムギ等、収穫物に種子が混入するおそれのある雑草は、抜取りを徹底する。
 - ・ 適切な収穫：赤かび病の発生が懸念されるため、適期収穫と速やかな乾燥に努める。また、著しい倒伏や赤かび病が多発した場合、健全ほ場と刈分けを徹底し、収穫物を混ぜない。

1 気象の概況

4月の平均気温は、上中旬は平年よりかなり高く、月平均でも平年より+2.1℃とかなり高かった。降水量は、定期的に降雨があり、月合計では平年比96%と平年並であった。日照時間は、上下旬が平年より少なく、月合計では平年比89%と少なかった。

2 生育の概況

（1）所内生育相

ア 小麦（「さとのそら」：11月25日播種）

4月24日調査時点の草丈は平年比97%、茎数は平年比93%となり、葉位は平年差+0.4枚となった。4月上旬は高温に経過し、定期的な降雨もあったため、生育は前進し、出穂期は平年（令和2～6年播種の5か年平均）より3日早まった。4月30日に気象庁が発表した1か月予報では、5月の平均気温は高い見込みのため、成熟期は平年（5月30日）より早まると予想される。

イ 大麦（「ニューサチホゴールデン」：11月25日播種）

4月24日調査時点の草丈、茎数は平年（令和5、6年播種の2か年平均）並となった。出穂期は平年より4日早く、出穂以降高温傾向に経過したことに加えて、4月30日に気象庁が発表した1か月予報では、5月の平均気温は高い見込

みのため、成熟期は平年（5月18日）より早まると予想される。

（2）県内全般

2月中旬まで降水量が少なかったことから穂数が少なく、有効茎歩合の高い生育となっている。現時点では遅れ穂の発生は比較的少ない。

出穂期は平年と比較して小麦で2～4日、大麦で4～5日程度早まった。麦が急速に伸長する茎立期から出穂期にかけて、気温が高く降水量が平年並みにあったことから、各地で葉色の濃いほ場が見られる。

病害では、穂数が少ないものの葉色が濃く、降雨が定期的にあったことからうどんこ病の発生が目立つ。また、晩霜による凍霜害の発生はほとんど見られなかったが、多雨傾向のため赤かび病の発生は引き続き懸念される。

3 今後の生育予測

（1）気象予測

1か月予報（気象庁5月7日発表）では向こう1か月の平均気温は高い確率が60%、降水量と日照時間はほぼ平年並の見込みである。また、3か月予報（同4月21日発表）でも、6月の平均気温は高く、降水量はほぼ平年並の見込みである。

（2）生育予測

出穂期が早まり、登熟期間の平均気温は高いと予報されていることから、成熟期は早まると見込まれる。特に、登熟後半に高温に遭遇すると急激に成熟が早まることがある。

4 今後取るべき技術対策

（1）排水対策

登熟期の高温や集中豪雨などは、麦類の根にダメージを与えて枯れ熟れを引き起こす要因となる。このため、再度、明きよのつまりの除去や排水路との連結の確認を行い、排水対策を徹底する。

（2）雑草種子の混入防止

カラスノエンドウやカラスムギはグレーダ等で選別できないため、発生している場合は、必ず収穫前に抜取りを行う。

近年、緑肥として利用されているヘアリーベッチ（和名：ナヨクサフジ）がほ場外へ逸出して、麦ほ場へ侵入するなど雑草化が始まっている。麦ほ場で定着する前に抜取り等の防除を行う。

（3）機械類の整備

成熟期近くに高温乾燥の気象条件に遭遇すると、刈取適期が急に早まることがある。余裕を持った作業計画は農作業安全にもつながるので、コンバインや乾燥機等の清掃や点検を早めに行い、収穫作業に備える。

(4) 適切な収穫の徹底

2か年続けて赤かび病が多発したことから、地域の病原菌密度が高まっている。また、赤かび病菌の子のう胞子飛散好適日が多く出現していることから、4月27日に病虫害防除所から令和8年度病虫害発生予察注意報第1号「ムギ類赤かび病」が出され、注意を呼び掛けている。

倒伏や刈り遅れて降雨にあたると赤かび病の進展を助長するため、天気予報に留意して適期収穫を徹底する。ただし、高温で成熟期が早まっても農薬の使用基準で収穫前日数が長い薬剤を使用した場合は、散布後定められた日数を経過した後には収穫を行う。

収穫前にほ場を注意深く観察し、赤かび病の発生が多いほ場や発生ほ場で倒伏が見られる場合は健全粒へ進展するリスクが高いため、被害を受けていない麦と刈り分けを行う。

強風や降雨の影響により倒伏が発生すると収穫時期の判断が困難となるので、倒伏程度の軽い部分を優先して収穫し、刈り遅れや穂発芽粒の混入による品質低下を防ぐ。

(5) 適切な乾燥・調製作業

収穫後は高温多湿条件で長時間保管することなく、速やかに乾燥を行う。グラダは麦種ごとに適切な網目を使用し、適正な流量を保って調製する。

解析・考察に用いた具体的数字

1. 4月の気象表（熊谷气象台日別測定値から集計）

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	13.7	11.5	19.3	17.4	8.8	6.2	40.5	15.9	20.9	33.5
2	14.8	12.5	20.1	18.4	9.5	7.1	1.0	17.4	26.1	33.3
3	18.2	13.4	25.2	19.5	12.1	8.2	10.5	16.3	36.5	32.4
4	17.1	14.4	24.0	20.4	10.9	9.3	2.5	14.2	44.5	31.2
5	15.8	15.3	21.9	21.3	10.8	10.1	19.0	13.5	26.4	31.6
6	16.1	16.2	21.2	22.3	11.2	10.9	13.5	13.5	21.2	33.2
平均	16.0	13.9	22.0	19.9	10.6	8.6	合計 87.0	90.7	175.6	197.1

注.半旬数値は熊谷地方气象台日別測定値から集計。ただし、月平均・合計は气象台値。

平年値は 1991～2020 年の气象台値。

2. 生育状況

品種名	調査日	草丈(cm)		茎数(本/株)		葉位(L)		風乾重(g/100本)		風乾歩合(%)	
		本年	平年比	本年	平年比	本年	平年差	本年	平年比	本年	平年差
さとのそら	4月6日	71.3	116	4.6	66	11.1	0.7	409.5	117	16.3	-0.3
	4月15日	86.8	111	4.0	81	11.1	0.4	545.9	107	20.8	1.6
	4月24日	88.6	97	4.0	93	11.1	0.4	810.6	115	26.5	2.6
ニューサチホゴールデン	4月6日	99.4	121	7.2	64	10.5	0.0	644.3	104	17.1	1.2
	4月15日	104.3	100	6.6	88	10.5	0.0	833.7	103	22.0	1.8
	4月24日	105.1	101	6.6	100	10.5	0.0	1034.1	100	24.9	-0.4

注1. 平年値は「さとのそら」が令和2～6年播種の5か年平均、「ニューサチホゴールデン」が令和5、6年播種の2か年平均（以下同様）。

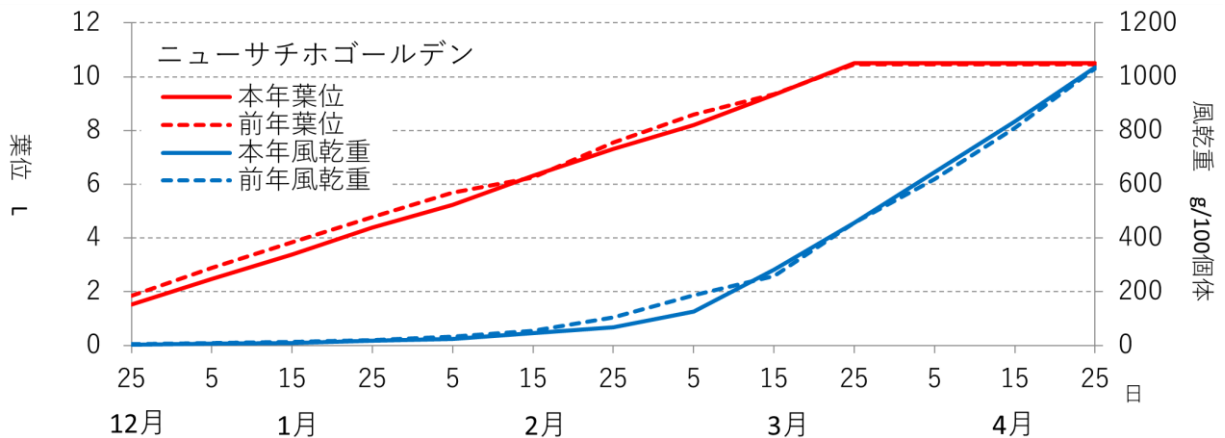
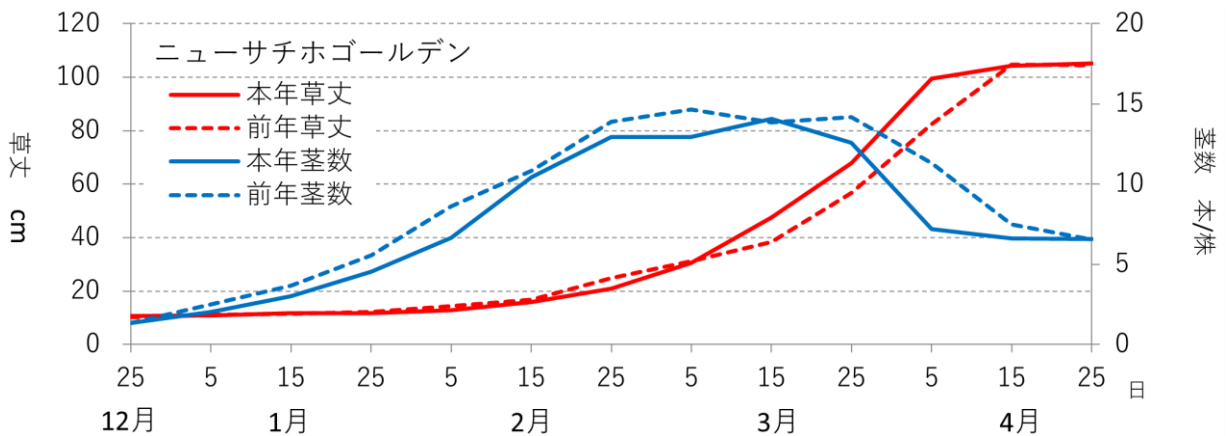
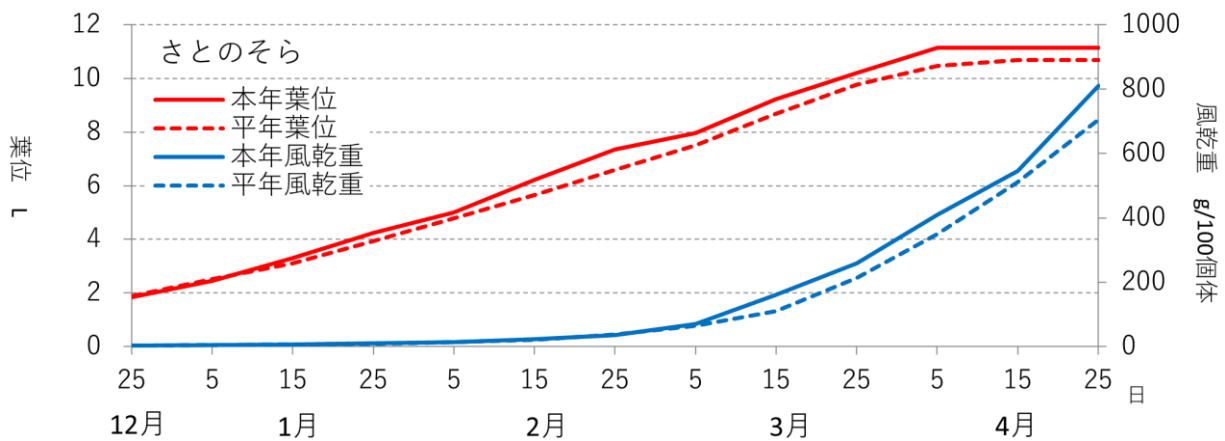
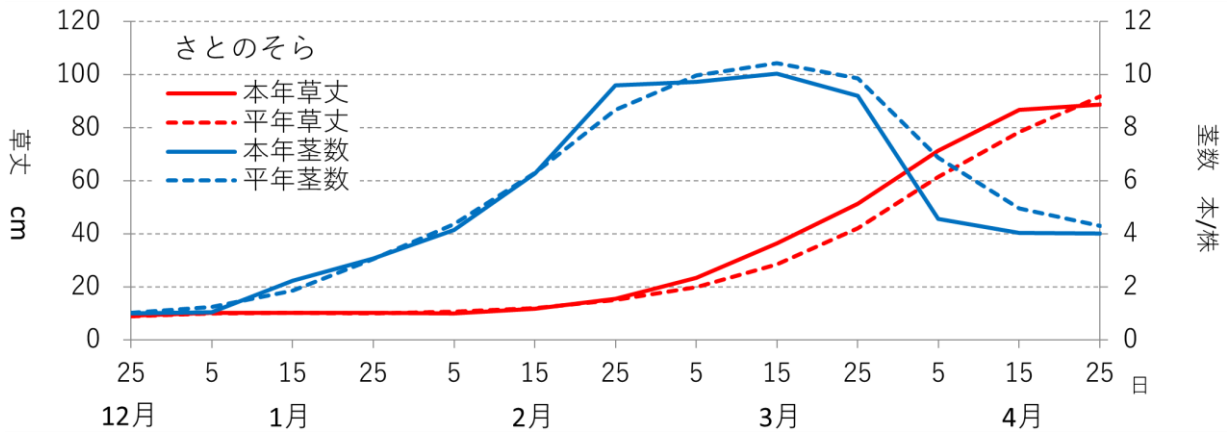
注2. 風乾重は100個体当たりグラム、風乾歩合は風乾重/生体重。

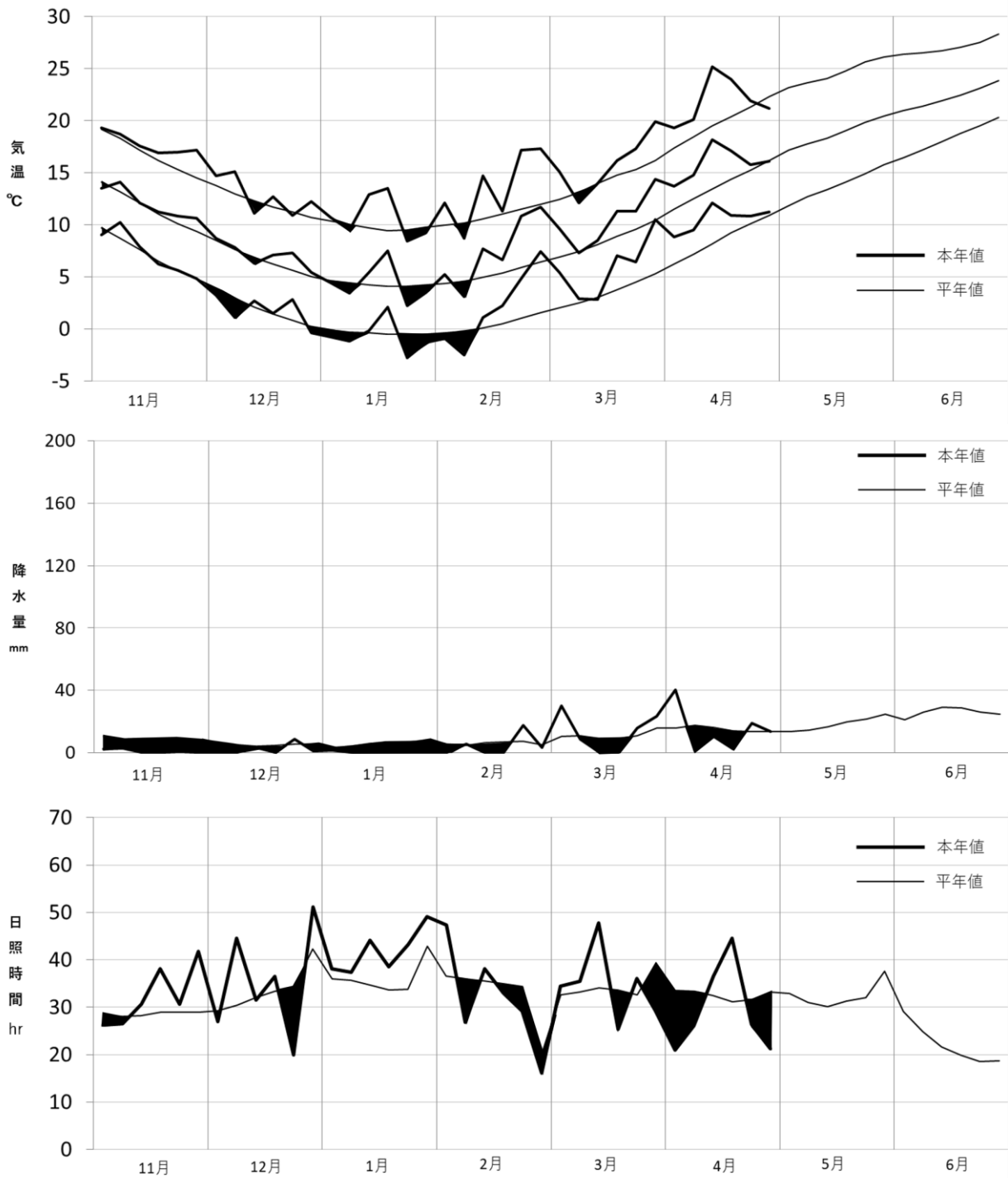
注3. 平年比は%。

3. 出穂

品種名	茎立期			出穂始			出穂期			穂揃期		
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
さとのそら	3/11	3/15	-4	4/7	4/9	-2	4/8	4/11	-3	4/10	4/14	-4
ニューサチホゴールデン	3/2	3/2	0	3/30	4/2	-3	4/1	4/5	-4	4/2	4/8	-6

4. 生育経過（11月25日播種）





令和7年播種（8年産）冬作期間気象図
 （熊谷地方気象台日別データより作成）